

2023/12/16

2023 年度 慶應 SFC 学会 (D)研究調査・フィールドワーク助成 成果報告書

千年村プロジェクト-琵琶湖湖東疾走調査-

所属:総合政策学部 2 年

学籍番号:72206541

氏名:萩原 世

1.概要

本プロジェクトは10月7、8日に「千年村」の候補地になっている滋賀県琵琶湖の湖東地域でフィールドワークを行った。早稲田大学、千葉大学を中心に計8つの大学と関係者合わせて60人弱が参加した(図1)。今回の調査では、千年村疾走調査(以下、疾走調査)の手法を用いて千年続いた村の実態を明らかにした。疾走調査とは、一日で多くの千年村候補地を車で駆け抜けて観察する手法である。この手法で、村々の関係性を見つけることができた。



図1:1日目の集合時の様子(学生撮影)

2.千年村とは

千年村とは、自然災害や環境変化を乗り越えて千年以上続いている集落・地域をいう。東日本大震災後に『和名類聚抄』と『角川日本地名大辞典』を参照して千年村の候補を見つ

け、野帳を作成した。本プロジェクトは、それら千年村の候補地を疾走調査し、持続の要因・実態を解き明かす研究活動である。

3.当日の流れ

当日は、各大学が混合するように組まれた班で、疾走調査を行った。各班には担当の村があり、その村を調査しつつ、周辺の村々との関係も見て回った。具体的には断面図を描いたり、住民にインタビューを行ったりした。そして、夕方に担当の村の調査結果を各班は発表し、他の班へ共有した(図2)。発表は二日目も行った。



図2:各班の成果発表の様子(学生撮影)

4.成果報告

今回の成果では、調査対象地が千年続くヒントを得られた。それは実際に調査地に赴き断面図を描けたことで、地域を俯瞰的に捉えられ

たことである(図3)。そして住民にインタビューをしたことによって、他の村との関係性や、そこの生活など質的な側面を聞くことができた。



図3:調査地の断面図(学生作成)

また、学生は調査手法や調査結果のまとめ方について多くの学びがあった。学生は各専門分野の人と意見交換をしたことで知見を広げられたことと、調査結果を短時間でまとめるスキルを得ることができた。本プロジェクトは複数の大学との合同調査であった。調査時、建築や園芸を専門とする教員や他大学生と集落を見て回ったことで、参加者はさまざまな視点を持つ意見を交わしながら、村の特徴や地域同士の関係を考察することができた。また、疾走調査後に、各グループはその結果を一枚の紙にまとめて発表を行った(図4)。そのため調査で得た情報を整理できたとともに素早く形にするスキルを学生は得られたと考えている。



図4 成果報告時の発表資料(学生撮影)

5.今後の研究予定

今回の調査結果は、今後各大学と協力しながら報告書を完成させる予定である。先日、その進捗を共有する集まりが開催された。現在では、各班は報告書の作成をしている。

本研究は、毎年行われる千年村プロジェクトの今年度の活動である。そのため今回の調査は、日本各地にある千年村の候補地の一部である。今後も、本プロジェクトは他の千年村候補地へ赴き、その実態と長年続く仕組みを明らかにする予定である。

参考文献

1. 源順, (983), “和名類聚抄”
2. 千年村プロジェクト事務局, “千年村メインページ”, 千年村プロジェクト HP, “<http://millervill.org/千年村プロジェクトとは>” (最終閲覧日:2023/12/14)
3. 小林千尋 & 神保洋平, (2015), “千年村疾走調査・完全マニュアル”, 10+1website, “<https://www.10plus1.jp/monthly/2015/12/issue-02.php>” (最終閲覧日:2023/12/14)